



これまでに培ってきた技術、学び、行動力で地域に活気をもたらすため、身近にある魅力を見て、学び、みんなで地域の未来を考える。  
新しい仲間を巻き込みながら——。



伝える、魅せる  
**農家ハンター3.0**  
SINCE 2021

食の豊かさが失われないように、  
里山を守りたい——。  
子どもたちに、  
農業体験で感動を与えたい——。  
地域のために、  
住み続けられるまちを目指したい——。



全ての始まりは小さなつぶやきから。  
それは、やがて実を結び、奇跡を起こし始めた——。



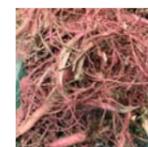
専門家や地域の人とまちづくりを考える。



山や海を歩き、生物の多様性や地域の魅力を再発見。



## 地域を笑顔に



3年前に始めた耕作放棄地の再生。草だらけだった畑を耕したが、翌日にはイノシシの足跡が無数についていた場所…。今年もイノシシから作った堆肥でサツマイモを育て、地域の子どものための学びの場となった。そして、イモのツルはイノシシ捕獲用のまき餌として活用される。

## 「イノシシを宝に変え、 地域づくりの奇跡を 起こしたい。」

「子どもたちが耕作放棄地で育てた作物を食べたり、箱わなの見回りツアーをしたり、子どもたちに里山の価値や地域の豊かさを伝えたい。」  
戸馳島を体験の島にしたいと宮川さんは目を輝かせる。  
地域のひとと力を合わせ、住み続けられるまちづくりを模索。  
イノシシを恵みに変え、地域活性化につながる新たな挑戦はすでに始まっていた。  
農家ハンター3.0、次なる高みへ。

農村を元気にしたいという一心で走り続けてきた5年半。増え続ける被害に、焦りを感じることも少なからずあった。  
だが、皆で力を合わせ、地域と畑を自分たちで守ってきた。今年に入り、三角町での被害は目に見えて減っている。捕獲頭数も減少傾向が続く。人間と野生動物との距離感を元に戻せるという未来が、この地域では実証できつつある。  
そしてこの夏、宮川さんにうれしい出来事が起きた。  
「近所のおじちゃんが3年前、イノシシ被害で諦めてしまった田んぼがあります。それが復活し、稲が実っていたのは今年一番うれしかった光景です。」  
また一つの成果が実った瞬間。  
秋には、耕作放棄地だった場所がたくさんサツマイモが採られ、子どもたちが収穫する姿を見ることができた。  
収穫体験を終えた子どもたちに、稲葉さんは語り掛けた。  
「ここはミカン畑が放置されて茂みになってたところ。3年前から草刈りして耕してやっと作物が植えられるようになった畑。畑を囲んでいるのは電柵ね。電気ではイノシシさんからイモばかり守りよるとよ。みんな触ったらガイコツになるけん。」  
辺りには子どもたちの笑い声が響く。その後は、恒例のイノシシピースで写真に収まる。  
「せーの、イノシシー」。  
みんな笑顔だ。  
「みんな次は何したいね。おっちゃんたち、山や海を探検して、勉強して面白いことば計画しようよ。みんなまた来てね。」

